

慈恵医大が被災地医療を「喰い物」に

福島賠償金にタカる外科医たち

東日本大震災から七年を迎える。被災地以外の者の記憶は、年を追うごとに薄らいでいく。だが岩手県や宮城県、そして東京電力福島第一原発事故の惨禍に見舞われた福島県では、化膿した傷痕のように今も人々の生活と心を蝕む。逆境につけり、被災地の医療を「喰い物」にしていると批判されているのが、私大医学部の名門・東京慈恵会医科大学附属病院(東京・港区以下、慈恵医大)だ。中心人物とされる大木隆生・慈恵医大外科教授とその部下たちは、「被災地支援」とはかけ離れた身勝手な利得行為にふけており、被災地からは悲鳴が上がっている。

「東電マネー」で大盤振る舞い

舞台は、福島県南相馬市の青空会大町病院だ。一八七七年(明治一〇年)の設立で、地元の名家である猪又家が経営してきた。現在、院長を務める猪又義光氏は五代目。一九六九年に慈恵医大を卒業した外科医である。元は猪又病院だった。

五年後、不正事件を主導した猪又義光氏が院長に復帰した。大町病院の問題は外科だ。赤字を垂れ流し、病院に多大な損害を与えている。その主因は「慈恵医大外科医局に喰い物にされているからだ」と病院職員は口をそろえる。問題の慈恵医大外科医局を仕切る人物こそ、大木教授だ。〇九年にはNHK「プロフェッショナル」の仕事の流儀」に取り上げられ、巷では血管外科の名医と言われている。しかし、大木氏には別の顔がある。

一五年には、事実上のオーナーを務める「銀座七丁目クリニック」の経営難を救うため、慈恵医大から患者を誘導していることが露見。昨年は、大木氏が実行委員長を務めるシンポジウムで、七年間にわたり約九千万円の所得隠しが発覚し、約二千万円を追徴課税された。手術室でゴルフクラブを振り回して器材を壊したことも。医局旅行で医局員に裸踊りをさせたり、女医にもビキニ姿で参加させたり、と問題行動が相次ぐ。

その大木氏は大町病院唯一の外科の常勤医として、Tという三十歳代の外科医を派遣している。さらに彼の支援と称して、週に三日程度、慈恵医大外科医局から一人の外科医が非常勤医、つまりアルバイトでやって来る。ところが、外科医の数に見合うだけの手術数はない。手術は週に一、二件ほど。それも多くは鼠径ヘルニアや胆のう摘出などの簡単な手術だ。



被災地支援とは名ばかりの医師派遣となった(福島県南相馬市の大町病院と大木隆生教授)

アルバイト料は一日に十万〜二十万円。それに交通費・宿泊費が加算される。「諸経費と寄付金などで七千万円程度を大木グループのために支払っている」(前出事務員)のだ。

大盤振る舞いの原資は約一億六千万円(一七年度の東京電力からの賠償金や、福島県からの年間九千万円程度の震災対策の補助金だ。電気料金や血税が大町病院を介して、大木氏たちに流れていることになる。

鼠径ヘルニアや気胸の手術は安い。診療報酬は六千点と二万一千(一点十円)だ。ところが、彼らの「できない」と文書で伝えた。勤務中のセクハラだ。病院は厳格に対処しなければならぬ。しかし、猪又氏はセクハラ委員会などで調査することなく無視した。

一方、いまだにTに処分は下されていない。その年収は一千五百万円を超える。悪事は隠し通せない。地元住民は「麻酔で意識がなくなる外科手術を淫行医師に担当されたくない」と不安を漏らし、大町病院を忌避する事態が起きている。これは被災地医療の崩壊への序章だ。

2018.3 選択

大木氏は何かにつけ「被災地支援の継続」を力説する。医療業界誌では「私たちは長期にわたって支援しよう」と三・一一以降、今でも福島県に医師を派遣しています(中略)。部活のアマチュア精神で集まった医局スタッフは志が高く、社会貢献マインドも強いのです」と自画自賛している。

この「詭弁」と大町病院職員の間では失笑の的だ。その象徴が大町病院へ派遣された常勤外科医である前出のTである。大町病院に赴任して約三年が経つが、病院

のホームページに写真や名前は見当たらない。理由は、Tが前地で未成年の女性と不適切な関係を持ち、条例違反に問われたからだ。Tは「もう少しで医師免許を停止されるどころだった。五百万円を支払って示談にしてもらったが、その際、大木教授に助けてもらった」と周辺に話している。

大町病院は一八年度に賠償金を一括して受け取り、一九年度以降、東京電力からの金は入らなくなる。大木氏は最近「経営が悪いのなら、医局員を引き揚げましょうか」と病院関係者に相談したという。カネの切れ目が縁の切れ目、後は野となれ山となれ、か。慈恵医大がこの一件でどう自浄作用を発揮するのか、見物である。

だが、医療保険への不正請求が二〇〇四年に発覚。猪又病院は同年三月に保険医療機関の指定が取り消されたが、地域の中核医療機関として、地元から継続を要望された。福島県は「猪又家が経営に関与しないという条件付き」(大町病院関係者)で、新法人の青空会が診療を継続することを認めた。

「この病院も、女性関係で問題を起こした医師など雇いたくない。ところがTの面倒をみてくれ」と大木氏から頼まれた猪又氏は、くだんの過去を理事会に諮らずに採用した。結果、Tは大町病院でも不祥事を繰り返した。昨年末以来「女性職員に性的関係を迫り、つきまとって

いる」と病院関係者は憤る。女性が深夜勤務中、泥酔したTが控え室に入り「好きだから仕方ない」と彼女をソファに押し倒し、性交渉を迫ったこともあったという。困り果てた女性職員は病院幹部に相談し「このままでは辞職する

2018.3 選択